

当日のルアー船で見つけた
大原沖のSLJで
〇〇しがちなシーン

タモ入れが間に合わなく
なりがち



ダブルヒットに
なりがち

▲青物の群れが濃く、2人同時にヒットすることもしばしば
▲船内のあちこちでヒットして船長のタモが間に合わないときは隣同士でタモ入れしよう

ガジメを釣りがち!



▲根魚がよく釣れる場所がカジメが引っ掛かりやすい



サメにかじられがち

▲ファイト中にサメに襲われて傷ついたイナダ。船の周りを泳いでいるサメもいた



1投目に
釣りがち

▶チャンス到来! 海鳥が集まっている下にはベイトフィッシュの群れがいて、これを食べるフィッシュイーターも回遊している
▲合図と同時に投入するとヒット率が上がる

海鳥が
集まりがち



▲イナダ〜サンバクサイズが中心で数が釣れた

ライズが隠れていたのだった。
船長の息子さんで、夏休みは毎日のように広布号に乗っている「ペテラン小学6年生」の大威翔くんも、ナイ

スサイズのマダイを釣った。しかもバンブルズジグSLJで。「お父さんのジグじゃなくていいの〜?」と常連さんのツッコミが入るが、広布号オリジナルジグでも高実績を上げている大威翔くん、それぐらいではまったく動じないのだった。

ヨッシーは、釣る、釣る、釣りまくる! 釣ったイナダは数知れず、小ぶりとはいえマダイを掛け、着底と同時にカサゴを掛け、これぞSLJといった感じでバラエティ豊かに様ざまな

魚を釣っている。ジャーッとドラグ音が鳴り響いた。ブリ系とはまた違う、強くて鋭い引きだ。「なんだなんだ?」

楽しいヨッシー。バンブルズエクストロSLJを根元から曲げながら上がってきたのは、珍客・スマだった。「これはうれしだね!」とヨッシーも声を上げる。これまた船内が盛り上がる。広布号は野島船長のもと、お客さんみんなが仲よしで気持ちいいのだ。

結局、11時の沖揚がりまでに、ブリ(ワカシ、イナダ、サンバク、ワラサ)、マダイ、ヒラメ、カンパチ(シヨゴ)、マハタ、カサゴ、そしてスマと多彩な魚たちが顔を出してくれた。「ホント、面白い釣りなんですよ」と野島船長。

「タックルがライトだから何が釣れても引きが楽しめるし、季節によって釣れる魚もどんどん変わる。挑戦してくれるお客さんも増えて、SLJも定着したかな!」とヨッシー。
小学6年生の大威翔くんが並み居る常連さんたちに混じってガンガン釣果を出しているあたりが、気軽にだれでも楽しめるSLJの真髄と言えるだろう。
実は今回使用したロッド、バンブルズエクストロSLJもヨッシーがプロデュースしたもので、ユニークかつSLJの最強ウエポンとなっている。
だが、このロッドについても書き始めると瞬く間にページが埋まってしまう。またどこかでSLJの取材を行う際に、ヨッシーのこだわりポイントを惜しみなく披露したい。
なお、スマはヨッシーからプレゼントされ、野島家の食卓を飾った。うまい魚が釣れるのもSLJのだいご味なのだ。